

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇子どもの「したい」という思いや願いを重視した授業づくりや、「問い」が生まれる展開を大切に、研修を重ねて授業改善を進めてきた。その結果、札幌市共通指標の「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」と回答した児童の割合は、前年度より2.6%向上している。また、協働的な学びも広がり、「人の意見を聞き、それを参考に自分の考えを見直すことがある」と回答した児童は89.2%と高い水準にある。</p>
	<p>◇札幌市共通指標で、「目標をもって生活している」と回答した児童は86.7%である一方、「自分で計画を立てて生活している」は76.7%、「課題解決の方法を考えている」は80.3%にとどまっている。目標意識は高いものの、実現に向けた計画や方法の工夫に課題が見られる。</p> <p>◇また、全国学力・学習状況調査からは、勉強の大切さは理解しているが、粘り強く取り組むことが苦手な児童が多い実態が明らかになっている。</p>
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題</p>	
<p>◇学校アンケートの結果から、「人とかかわりや体験的な活動を楽しんでいる」児童が増えている。また、札幌市共通指標では、「意見の違う人とも話し合おうとしている」児童は84.7%である。一方で、「自分の意見を進んで発言しようとしている」児童は74.4%にとどまっている。より認め合える関係性を築くためには、自分の考えや思いを安心して表現できることが重要であり、自己肯定感や安心感が、他者を認める姿勢につながると考える。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

しなやかに考え、しなやかに行動する子 ～子どもが“自ら学びに向かう”～

	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
取組	<p>◇ “子どもが自ら学びに向かう” 授業に向けて</p> <p>★教科部会ごとに“教材化のテーマ”を設定して授業づくり</p> <p>A 子どもが追究したいと思えるような教材化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元や題材を通して「問い」を意識し、見通しをもてるイントロダクション <p>A 子どもの“追究したい”が生まれる展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「問い」が次につながる展開 ・期待感のあるゴール ・個別探究⇄協働探究の往還 ・したい方法で、したい形態で学習できる環境・習慣づくり <p>R 振り返りによる学びの自覚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の学びを実感し、「学んだことを活用したい」、「次につなげたい」と思えるリフレクション 	<p>◇ 仲間・学校・地域 とつながる “子どもの思い” を大切にした取組</p> <ol style="list-style-type: none"> ①児童会活動を中心とした取組の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・山の手小の「3つの『あ』」を大切に、子どもの「したい」を生かした活動の企画・運営 ②学級・学年での主体的な活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・行事や日常生活の中で、学級・学年みんなで協力してやり遂げる経験を積み重ねる ③活動の振り返りと引継ぎの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・学習以外の場面でもリフレクション ・活動の成果や課題を次学年へ ④地域とつながる活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・パートナー校区で連携し、よりよい地域づくりを目指した活動(さっぽろっ子サミット)
<p>「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について</p>		
<p>◇効果的なICT活用（アプリ・生成AI・共有フォルダ・クラウドの活用）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが目的に応じて適切なツールを自分で選べるよう、複数のツールを使える環境を整える。また、それぞれの特徴やよさについて事前に指導する。 ・クラウドやアプリを活用して意見を集約・可視化し、一人一人の考えが共有・反映される学習環境をつくる。 		

<本プログラムの実行に向けて>

